

日本史(3) 「弥生時代① 文化と生活」

○今回のポイント

紀元前4世紀ごろになると、日本列島でも水稲耕作が始まる。
生産経済の成立と金属器の使用によって人々の暮らしは大きく発展した。

弥生文化の成立

(1) 中国大陸の発展

① 紀元前 6500～5500 年頃

・ [1. 黄河] 流域ではアワ、キビなどの農耕の発生。 [2. 長江] 流域では稲作の開始。

② 紀元前 6 世紀頃

・ [3. 鉄器] 使用の始まり。春秋戦国時代には農業生産も著しく進む(鉄製農具と牛耕)。

③ 紀元前 3 世紀

・ [4. 秦・漢] 帝国の成立 → 周辺地域に強い影響を及ぼす

(2) 水稲農耕のはじまり

① およそ 2500 年前

・ 縄文時代の終わりころ、朝鮮半島に近い九州北部で水田による米作りが開始される。
・ 佐賀県の [5. 菜畑遺跡]、福岡県の [6. 板付遺跡] など縄文時代晩期の水田が発見。

② 紀元前 4 世紀頃

・ 西日本に水稲農耕を基礎とする弥生文化が成立。
・ [7. 紀元前 4 世紀] 頃～ [8. 紀元後 3 世紀] の中ごろまでの時期を弥生時代と呼ぶ。

(3) 弥生文化の特徴

① 水稲農耕・ [9. 金属器] (青銅と鉄) の使用。

⇒ それまでの狩猟・漁労を中心とする [10. 獲得経済] から農業を行う [11. 生産経済] に移行

※本来なら石器時代→青銅器時代→鉄器時代と発展するが日本は青銅器と鉄器がほぼ同時期にはいつてきたことがポイントである！

② 石斧、石包丁、磨製石器、機織り技術など

③ 弥生土器…18884 年、東京の弥生町 ([12. 向ヶ丘貝塚]) から出土した土器。赤褐色で薄手・硬質。
甕・壺・鉢・高坏など機能ごとに形態が異なる。

(4) 弥生時代と縄文時代の比較

① 異なる点

・ [13. 弥生人骨] …縄文人骨に比べて背が高く、顔は面長で起伏の少ない。

② 類似点

・ 土器づくりの基本的な技術や打製石器・竪穴住居など明らかに縄文文化の伝統を受け継いでいる。

③ 文化の混合

・ 弥生時代の文化は金属器をとまなう農耕社会を形成していた朝鮮半島から、必ずしも多くない人々が新しい技術をたずさえて日本にやってくる、在来の縄文人とともに生み出した。

弥生人の生活

(1)水田…灌漑、排水用の水路を備えた本格的なもの。田植えの開始。

(2)農業

①農具と工具

- ・農具 : 刃先まで[14. 木製]の鋤や鍬 →【変化】→ [15. 鉄製]の刃先を持つ農具の普及
- ・工具 : 大陸系の[16. 磨製石器]→【変化】→[17. 鉄製工具]の使用(斧・鉋・刀子)
- ・収穫:[18. 石包丁]の穂首狩り／脱穀:木臼と竪杵／収穫物の貯蔵:[19. 高床倉庫]、貯蔵穴

②水田の種類

- ・[20. 湿田]…地下水位が高く排水が必要な水田。生産性は低い。
- ・[21. 乾田]…地下水位が低く、灌漑施設を必要とする水田。灌漑・排水を繰り返すことで土壌の栄養が良くなり、生産性も高くなる。

③陸稻、雑穀の栽培。農耕と狩猟・漁労の兼業。[22. ブタ]の飼育。

(3)住居

生産経済 → 余剰生産物の蓄積 → 集団間の戦争の激化 → 防衛的・軍事的な集落の発生

- ・[23. 環濠集落]…まわりに深い濠や土塁をめぐらした集落。大規模集落に多い。
 - ・佐賀県の[24. 吉野ケ里遺跡]、奈良県の唐古・鍵遺跡が有名。
- ・[25. 高地性集落]…周辺の平地よりも高い丘陵や山の斜面などに作られた逃げ城的な集落。
 - ・香川県の[26. 紫雲出山遺跡]などが有名。

(4)葬儀

- ・[27. 伸展葬]…土壙墓、木棺墓、箱式石棺墓に死者の両足を伸ばして埋葬する。※縄文時代は屈葬。
 - ・[28. 支石墓]…自然石の支柱の上に大きな平石を載せた墓。
 - ・[29. 再葬墓]…死者の骨を洗骨したのち、壺に入れて改めて葬った墓。

(5)墓制

①盛り土を持った墓が広範囲にみられるのが弥生時代の特色。

- ・[30. 方形周溝墓]…方形の低い墳丘の周りに溝をめぐらした墓制。

②後期になると各地に大規模な墳丘を持つ墓が出現

- ・[31. 楯築墳丘墓]…岡山県倉敷市の大墳丘墓。直径 40m 余りの円形の墳丘の両側に突出部を持つ。
- ・[32. 四隅突出型墳丘墓]…山陰地方。四隅がヒトデのように飛び出した特異な形の大型墳丘墓。
- ・[33. 甕棺墓]…甕(かめ)や壺(つぼ)を棺(ひつぎ)として埋葬する墓。九州北部の弥生時代中期の甕棺墓には中国鏡や青銅製の武器などを副葬したものが見られる。

③墓制の変化に見られる弥生時代の社会階層

- ・大型の墳丘墓や多量の副葬品をもつ墓の出現⇒集団の中に[34. 身分差]。各地に強力な支配者が出現。

(6)青銅製祭器の地域性 → 共通の祭器を用いる地域圏の出現

☆日本では青銅器と鉄器が同時期にはいつてきたので、青銅器の実用性は薄れ大型化して祭器となった。

- ・[35. 銅鐸]…日本独特の釣鐘形青銅器。近畿地方を中心に分布している。
- ・[36. 平形銅剣]…非実用的で国産品。瀬戸内海周辺に分布している。
- ・[37. 銅矛、銅戈]…九州北部に分布している。

☆島根県の[38. 荒神谷遺跡]・加茂岩倉遺跡の発見によって出雲王権の存在の可能性が指摘